

# Lieber Freund

NPO鳴門「第九」を歌う会だより

“友よ”

リーバー フロイント

vol.2

発行：NPO鳴門「第九」を歌う会事務局  
TEL 088-686-1296 FAX 088-686-7690(浅野)  
http://naruto9.web.infoseek.co.jp/ E-mail: naruto\_daiku@yahoo.co.jp

2004年4月1日発行

## Topics 鳴門の「第九」をめぐる活動が 地域づくり総務大臣表彰受賞!



うららかな春の陽射しが降り注ぐ3月14日(日)、鳴門市北灘町のエキシブ鳴門で、NPO法人鳴門「第九」を歌う会の平成15年度地域づくり総務大臣表彰受賞を祝う会が開かれました。まず、発起人を代表して平田義一副理事長から、続いて浅野司郎事務局長から受賞式の報告がありました。

今年度の受賞は全国で29団体。NPO鳴門第九を歌う会は、四国で唯一の受賞で、「世界にひらかれた街づくり」部門の表彰6団体のひとつとして栄誉ある賞をいただく事が出来ました。「音楽活動を通じての国際交流・ドイツ全域へと広がりを見せる交流の輪・地域の歴史的経緯を踏まえ、文化交

流のみの国際交流にとどまることなく、平和友好の架け橋として新たな交流事業を促進させる原動力となっ

ている。また、会の活動が地域の文化水準を高め、活性化を促進している』——これが受賞理由となりました。

年度末の忙しい中、駆けつけてくださった

亀井市長さん、そして、上山亮史郎さん、志摩治子さん、島弘子さん、満上千種さんと会員の喜びの声が続きます。さまざまな思いで第九と関わり、活動を支えてくださっている4人の言葉は、そのまま会場すべての皆の思いでした。

鯛や白魚、筍…と春の喜びあふれる料理に舌鼓を打ちながら、頃安利秀先生のドイツでの演奏会のビデオを鑑賞し、最後は皆で春の歌を歌って締めくくりました。第23回第九演奏会に向けて大きな励ましをもらい、頑張っていこうと気持ちを新たにした一日でした。(→関連記事 P5)



▲「昨日ドイツから帰国したばかり」の頃安先生もご出席



## 忙しく充実した秋冬…そして、春へ

街に山に桜が咲き誇る美しい季節がやってまいりました。NPO法人鳴門「第九」を歌う会の皆様には、お健やかに過ごしのことと存じます。本会も昨年7月の総会以来、事務局を中心に、会員の皆様のご尽力のもと、すばらしい成果を挙げていただいておりますことに、改めまして厚く感謝申し上げます。さて、本会の主事業であります第23回第九演奏会

も昨年12月より合唱練習が実施されています。また、新企画の「秋のコンサート」に向けての練習計画も整い、練習が開始されました。6月の第九演奏会後には、本格的に練習が始められるものと存じます。今後とも、会員の皆様には一層のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。会報第2号発刊にあたってのご挨拶といたします。

### 活動の記録

2003.9月～  
2004.3月



指揮:大井美弥子 伴奏:吉成くみ  
演奏曲「この道」「荒城の月」  
「ずいずいずっころばし」  
「祖谷の粉ひき歌」他

### 大塚国際美術館に響く「歓喜の歌」

9/12(金) 第20回商工会議所青年部四国  
ブロック大会鳴門大会記念式典

9月12日、大塚国際美術館シスターナホールで開催された「第20回商工会議所青年部四国ブロック大会鳴門大会記念式典」に賛助出演しました。会場内は約700人の参加者であふれんばかり。式典は「歓喜の歌」の大合唱で幕が開きました。「最後の審判」「天地創造」の見事な陶板画をバックに歌う「第九」はまた格別で、荘厳に力強く歌い上げることが出来ました。式典の中では、「君が代」、商工会議所青年部の歌「伸びゆく大地」が私たちのリードで歌われました。

これまで20回の大会の中で、生演奏は初めてとのことで大好評だったと、とても喜んでいただきました。「第九日本初演の地鳴門」をアピールしようという鳴門役員の皆様の要請で出演して下さった皆様、ご苦労様でした。「世界に響くNo.1は四国から!」をテーマに開かれた若手企業家集團の大会に花を添えることが出来たでしょうか。懇親会が始まりアルコールが入ってから合唱は、歌う方も聞く方も雰囲気にとくわいな感があり、問題が残りました。(浅野里江さん)

### コスモス咲き誇るドイツ館にて

10/26(日) ドイチェスフェスト in 鳴門

恒例のドイチェスフェストにコーラス9が出演しました。演奏曲は、ドイツでも披露した「この道」(北原白秋作詞、山田耕筰作曲)と、今季初披露になる「登きえた」(谷川雁作詞、新実徳英作曲)。鳴門市民合唱団や板東小学校の皆さんと共に、山西加容子先生の指揮で「ふだん着の第九」を歌い上げました。



指揮:大井美弥子  
伴奏:田村 美保

### コーラス9、今季の練習の成果は?

11/9(日) 鳴門市芸能祭

3シーズン目を迎えたコーラス9は、日本の旬の作曲家2人の作品に挑戦しました。「登きえた」(谷川雁作詞、新実徳英作曲)と、「さびしいカシの木」(やなせたかし作詞、木下牧子作曲)です。美しい日本語と美しいメロディーの結びつきは本当に魅力的で、歌うほどに好きになる曲でした。十分な練習が積めなかったのが残念でしたが、ステージでは心を込めて歌い上げました。



指揮:大井美弥子  
伴奏:田村 美保

## 県外研修レポート その1

## 香川第九演奏会に参加して

11/9(日) 於:香川県民ホール



レポート: 原本美代子さん

香川の県民ホール。栗林公園をずっとまっすぐに港にむかって行くと、玉藻公園に隣接して、立派な県民ホールが立っていました。今日はここで「第九」を歌えるし、又、皆にも会えると楽しみにロビーまで行き受付を済ますと、まだ早いせいか人影まばらです。見回すと、いたいた。

「ハァーイ、母、こっち、こっち!! 久しぶり。

変わってないネ! 息子は?」

「そこらにいるはずよ」

と元気な返事。

「あー!! いたいた、おーい!! こっち、こっち!」

と、ドイツ里帰り公演Cコース3、4班に戻っている。半年余りのブランクを感じないのは何故?

という次第で香川のコンサートに参加させて頂いたきっかけはドイツ公演です。あの感動よ再びとばかりに参加させて頂きました。

予想に違わず、香川でのコンサートも感動が一杯でした。観客にぐーっと近づいていて、舞台と観客が一体となるのです。クライマックス、コーラスではライトが観客席にもあたり、450人余り

の大合唱団と一体となって、県民ホールが割れんばかりの迫力です。客席も立見ができる程の人。力強い「第九」はまさに香川の「第九」です。

鳴門では最初から合唱団が控えています。香川では楽章の合間に合唱団が出るので、リハーサルは出たり入ったりと本当に念には念を入れた練習です。その大変さも吹き飛んでしまう程の迫力で、今までとは違う感動がありました。

歌う事が好きというだけで、何の素養もない私ですが、あの喜びの歌が歌えるだけで日常味わう事の少ない充実感を味わえ、感動し、こうして人の輪が広がってゆく事が実感できるのです。確実に私の心の中で「第九」の占める割合が又広がった事を確信しました。

頂いた賀状に、立派なお言葉がありましたので、引用させていただきます。

「年頭にあたり思う事は、宗教や国の利害を乗り越え、テロ、殺戮、争乱が収まるその日まで、世界文化遺産の「第九」を声が出る限り歌い続けたいと感じている次第でございます」としめくくられていました。もう本当にその通りと思った香川行きでした。

レポート: 谷 正博さん



実は、この日は鳴門市芸能祭とのダブルヘッダー! 両方に参加された皆さん、本当にお疲れ様でした

2003香川第九に鳴門第九のメンバー15名の皆さんと行って来ました。当日、11月9日は「鳴門市芸能祭」。朝8時30分に集合。まず、某合唱団で1回、次の次の我が「コーラス9」に出演、そして、その足で一路高松へ。

香川県民ホールに着くも、やっぱり、というか楽の定、合唱練習もゲネプロも終わってました。

例のごとく、第2楽章が終わるまで廊下、舞台袖で待機。これでえ〜のかいなと一寸だけ心配しながら舞台へ(とにかくこんな初体験ですので…)。そんな思いのなかで、ふと、頭のみで「ベートーヴェンの声」でないことは確かやけど「鳴門の

第九のメンバーやろ」、「これまでだてに練習してきたわけではないやろ」と言うような(叱責か励ましか)声が聞こえてきたような…。

そして、第4楽章が始まるともうそれは行け行けどんどの世界! 一気に歌い切りました。うーん、これはまさに、鳴門「第九」の歴史と伝統、鳴門「第九」のメンバーとしての誇りがそうさせたのか!!と勝手に想像した私ですが…如何に??

まあ、いずれにしても、普段ほとんど思う事のない(不謹慎?)「鳴門第九の…」を再認識する1日になりました。これからも鳴門第九の皆さんと共に「第九ライブ」を楽しみたいと思いま〜す。

## 一万人の第九に参加して

12/7(日) 於:大阪城ホール



レポート: 編集部 濱田佳代子さん

今回のゲストは森山直太朗さん。私達の役目は大ヒット曲『さくら』のバックコーラス。バスの中、上山さん制作の『さくら』の練習CDにあわせ、何度も何度もパート練習。直太朗さんと歌う機会が三度あり、そのたびに歌わずに聴いていた衝動にかられました。それ以来、直太朗さんがテレビに出るたびに思い出に浸っています。

突如、シークレットゲストとして「阪神タイガース」の八木裕内野手、矢野輝弘捕手が登場。阪神タイガース優勝おめでとうございます！ 指揮者・佐渡裕さんのタイガースに対する熱い思いも披露され、大阪城ホールが“甲子園”に大変身。14200人がいっしょになり『六甲おろし』の大合唱。さすが大阪です。

指揮者・佐渡裕さんは一人ひとりを主人公にしてくれる魔術を持っています。クラシック音楽を

演奏会はもちろん、小旅行で親睦が深まるのも楽しみな「一万人の第九」。阪神優勝の熱気さめやらめ大阪で佐渡裕さんの指揮で歌ってきました。

身近なものに感じさせてくれ、窮屈さを感じさせません。佐渡さんの暖かいキャラクターが一人ひとりを引き付けます。最後列の席になり少々不安でしたが、目の前の状況に集中することができ、いい経験ができました。

大阪城をバックにパチリ!



## シーズン開幕！ 発足式開催

12/3(水) 於: 鳴門市文化会館大ホール



日本全国に歓喜の歌声響く師走は、鳴門の第九始動の時期です。第23回となる今回の演奏会は、全日本「第九を歌う会」連合会15周年記念にもあたり、また、NPO法人鳴門「第九」を歌う会の総務大臣表彰受賞記念ともなる、とても意義深いものとなります。

演奏会は6月6日(日)14時～。山田啓明先生を念願の指揮に迎え、ソプラノ: 松田昌恵さん、そしてアルトはおなじみの小川明子さん、テナーはもちろん頃安利秀先生、バスに戸山俊樹さんというゲストで演奏します。

12月3日に行われた発足会では、ドイツ館国際交流員のシュルツさんによる講演「第九指揮者ハンゼン氏の生涯」も行われ、続いて、頃安先生による

ドイツ語の発音講座が行われました。

4月現在、パート練習が終わり、すでに2つのステージを踏み、後は6月の本番に向けて、山田・頃安両先生のご指導のもと、よりよいものに仕上げていけばかり!

今季は、新しい試みとして、頃安先生をはじめとする指導者の方々による「中学生の合唱教室」も開催。鳴門市内の18名の中高生たちが素直でのびやかな歌声を響かせています。今回は無理でも、来年、あるいは近い将来、いっしょに第九のステージに立ちたいものですね。



▲シュルツさんもすっかり日本に慣れたようです



## 第2回研修会 クリスマスコンサート

12月21日(日) 於：鳴門グランドホテル

レポート：堺 雅美さん



前日、前々日の雪で心配されたお天気も回復し、気持ちの良いコンサート日和となり、「第九」を愛する72名が集いました。

今回の研修会は、6月の里帰り公演の時、お世話になった遠藤綾子先生の講演会ということでも楽しみにしておりました。大学時代から始められたということですが、全身で13弦を巧みに操られて、今年弾き納めということでも、色んなジャンルの曲を5曲聴かせていただきました。どれも素晴らしい

しい演奏で、アンコールの曲は里帰り公演の時の演奏曲で、懐かしく思い出にふけてしまいました。

お正月ぐらいは耳にしないお琴ですが、古くから伝わる日本の伝統をこれからも継承するために、遠藤先生には益々ご活躍くださることをお祈り致します。交流は苦手な私ですが、クリスマスソングは楽しんで歌わせていただきました。クリスマスとお正月気分を味わったとても素敵な一日でした。

染み入る音色

坂東 香子

「阿波の水門」向連のホテルの 華の宴

音やはやはと 平坂名に似る(土佐日記万葉名)

「土佐の泊り」と答えし侍女も さしあらい

若き奈女の そのまなま

爪ゆらせ たましほ揺ゆらせ強ゆらし

染み入る音色 われも揺れどり

ホカロンと 両肩に貼り敷らす春日の

琴爪のゆえはぐれゆく世

動かせる

「琴柱の形水夫に似て 潮にいとじさま わらわらと頭つ

「題名五つの歌」弾くうつつには

古き音人 映りているや

琴の音の 秘めたるは何 ひと処

たひらなる潮 しろく浪立つ

## ビッグニュースに沸いた日

～鳴門「第九」が総務大臣表彰を受ける～

年の瀬もおしめまつた12月、ビッグニュースが飛び込んできました。平成15年度地域づくり総務大臣表彰「世界に開かれたまちづくり」部門に我が鳴門「第九」を歌う会が選ばれたのです。1月23日、東京都道府県会館で表彰式が行われました。ずっしり重い



楯は、すべての会員の力強いご支援、ご協力の重みでもあることを実感した表彰でした。式典では、国会開会中で超多忙な中、麻生太郎総務大臣が出席、「今、地方の時代で、それぞれ知恵と



工夫で我が町の活性化を図っている皆さんに敬意を表するとともに、志を同じくする人々のリーダーとしてますます活躍していただきたい」と祝辞を述べられました。懇親会では、国際交流で表彰を受けた方などと交流を深めることができ、思い出深い一日となりました。(浅野司郎さん)

## 受賞のうれしい効果？ 相次ぐ出演依頼



▲「国際ロータリー地区大会」でのリハ風景

今季の練習が始まってまだ間がないというのに、次々と出演依頼が舞い込み、うれしいやら慌てるやら。これも受賞効果でしょうか？ 早く参加して下さる会員の皆様、そして、ご協力くださる指導者の先生方には、心より感謝申し上げます。

2月22日(日)、鳴門市文化会館で「拉致問題講演会」が開催されました。私達はオープニングに出演。豊成哲先生の指揮、吉成くみ先生のピアノで、「荒城の月」「ふるさと」、そして第九を披露しました。

続く3月6日(土)には、アスティとくしまで開かれた国際ロータリークラブ四国地区大会にも賛助出演。指揮：山田啓明、ピアノ：田村美保、そして、ソリストに田中和江(S)、富岡久乃(A)、若井健司(T)、美濃孝行(B)の各氏を迎えて、第九を演奏しました。反響板もなく、返しのモニターから流れるピアノ伴奏と、山田先生の指揮だけがたより。いつもと勝手が違っただけ戸惑いもありましたが、そこはそれ、山田先生の熱い指揮と、チームワークで熱唱(?)! 会場のお客さんから熱い拍手をもらいました。

## 急募!! 男声...

11月23日(予定)に山田先生、頃安先生らと共にモーツァルト作曲「戴冠ミサ」K.317 ハ長調に挑戦することになりました。コーラス9を母体に参加者を募り、3月28日から練習が始まりました。ところが、男声の参加者が不足しています。合唱人なら一度は歌ってみたい名曲のひとつです。ぜひぜひご参加ください。参加申し込みは事務局(浅野) ☎088-686-1296まで。

## 事務局だより

### ♪新体制による運営で新しい風を

NPO法人として2年目を迎え、組織の自主・自律、そして更なる発展を目指して、事務局組織を見直しました。県内外での研修のお世話をする研修部、会報やホームページによる情報発信を目指す広報部、法人としての運営の要となる会計部など、それぞれの部署で新しい取り組みが始まっています。

### ♪第3回研修会のお知らせ

北島町出身の栗田美佐さんによるピアノ独奏を鑑賞します。栗田先生は7年間のドイツ留学を終え、昨年帰国。昨年の第九の交流会で、頃安先生の伴奏をされたのをご記憶の方も多いと思います。ショパンのスケルツォ第2番他を演奏して下さい。ふるってご参加ください。  
日時：4月21日(水) 19:00～19:30  
会場：鳴門市文化会館大ホール(第九の合同練習の前に、ホールで行います)

### ♪一筆箋のご協力お願い

本年も、一昨年昨年に続いて、全国から鳴門に集う第九仲間を“一筆箋で歓迎”したいと計画しています。製品が出来上がりましたら『歓迎のひとつ』を添えて、個性豊かな包装をお願いしたいと思います。約150名の県内会員で県外参加者450名分を製作しますので、お一人3～5点受け持って下さると嬉しいです。なお、“一筆箋基金”にも溢かいてご協力をよろしく!

### ♪本番に向け、ボランティアのお願い

“鳴門の第九が一番!”と、県外参加者から大好評をいただいている、本番前日・当日の受け入れ態勢は、鳴門第九会員様・賛助会員様の強力なお力添えがあつてこそ。本年も一人一役、二役でお支えください。

こすら、**広報部** 「Lieber Freund(親愛なる友よ)」というタイトルを掲げ、広報部による機関誌がスタート。写真担当、デザイン担当、口出し(?)担当と協力しながら、初発行となりました。寄稿してくださった皆様、ありがとうございました。ご意見・感想などお待ちしております。次回発行は6月6日。本番特集号「響け!第九よ、鳴門の空に」でお会いしましょう。(広報部一同)